

地域連携センター設立の趣旨

大阪市立大学は、教育・研究と並んで大学の重要な使命である「社会貢献」の役割を総合的かつ組織的に遂行するため、2013年2月1日 地域連携センター(Collaboration and Contribution Center for Community)を開設いたしました。

このセンターは、地域の皆様との連携を第一と考え、窓口の機能を強化する「地域貢献」、青少年の知的興味を喚起し、進路の選択に資するために高等学校等と連携を図る「小・中・高等学校との連携」、社会人のスキルアップ・地域の方々の生涯学習機会を提供し、地域づくりに貢献できる優れた人材を養成する「公開講座」、都市大阪の研究等を通じて、地域の課題にこたえる「シンクタンク拠点」として、地域の人々の様々な出会いと交流の場の創造に寄与し、地域の活性化、文化の発展に貢献することを目指しています。

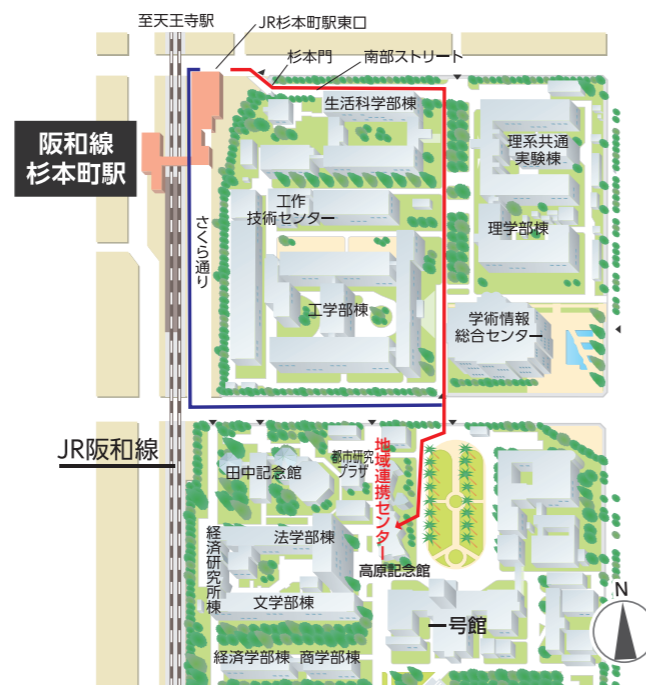
組織・施設



組織図



センター外観



アクセス図:キャンパスマップ

文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に本学が採択

大学の地域貢献が強く問われる中、大阪市立大学でも2013年2月地域連携センターを創設し、文部科学省が打ち出した新しいビッグプロジェクトである「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」への申請準備を進めていました。このプロジェクトは、研究・教育・地域貢献を、三位一体として教育プログラムとして実現していくという、今までにない事業です。共同申請となった大阪府立大学とも連携を取りながら5月末に申請、約6倍の関門を突破して採択され、9月から事業実施となりました。全国52の採択事業拠点の中で、大阪府では唯一の事業例となりました。



CRテーブル(地域との対話の場)

事業課題は「大阪の再生・賦活と安全・安心の創生をめざす地域志向教育の実践」としました。大阪が抱える深刻で重層化した地域課題に立ち向かうための教育システムとして、全学共通教育にコミュニティ再生Community Regeneration副専攻(略してCR副専攻)を設置する構想で、「地域実践演習」や専門家・実践家らと学びあう「アゴラセミナー」等のユニークな授業カリキュラムのもとに、アクションリサーチ型の教育を導入します。またこれら教育をバックアップする「地域志向教育研究」の研究助成枠も設け、カリキュラムの編成や評価については本学の大学教育研究センターと連携して行います。

地域との対話にあたっては、まず「地域連携センター」が地域のニーズを大学として受け止める窓口となり、

問合せの内容の種別化を図っていきます。実質的にCOC教育につながる可能性のあるものについては、コミュニティ再生に向けた対話の場である「CRテーブル」を地域と形成しつつ、教育プログラムにも展開していくコーディネートの役割を担います。

CRテーブルを形成する重点分野として「地域福祉」、「環境・防災」、「地理・空間」、「地域・文化資源」、「地域活性」を設定しています。これらCRテーブルを形成し、またCOC事業全体を推進する組織として、新たにプロジェクトマネジメントオフィスPMOを設置しました。将来的にはPMOをシンクタンクやドゥタンクにつなげていきたいと考えています。

<https://www.connect.osaka-cu.ac.jp/coc/>

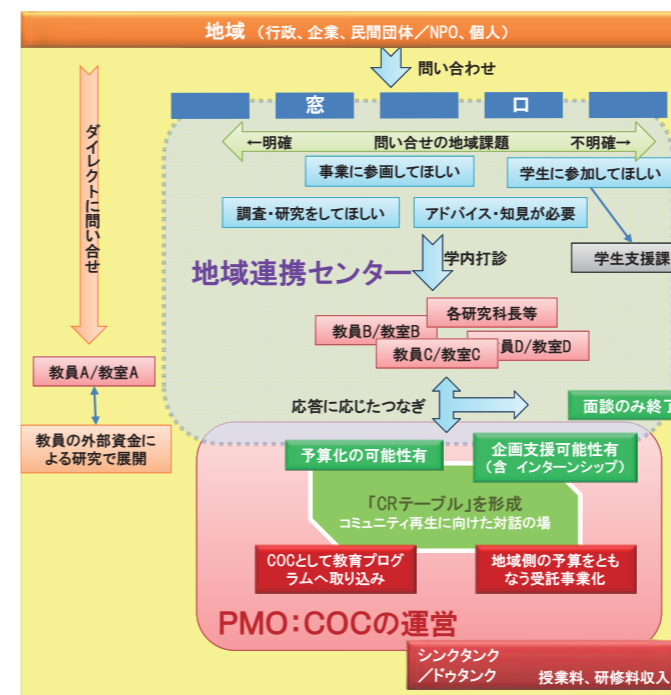


図:地域連携センターとCOC事業の関係